

国土交通

2011.8-9 No.110

特集
日本を元気に、
旅で笑顔に。



いま、
会いに行きたい
日本があります。

日本の夏を
元気に、
旅で笑顔に。

笑顔になれる旅の情報満載!

国内旅行振興キャンペーンポータルサイト



<http://kokunai.nihon-kankou.or.jp/>

がんばろう!日本

検索

夏休みの旅行に耳よりな情報や全国の観光・イベント情報、さらにはお得なキャンペーン情報など、日本を元気にする旅の情報がいっぱいです。さあ、今すぐアクセスしよう!!

笑顔1 投稿で! アンケートで! プレゼントが当たる!!

日本再発見。
もう一度日本を見つけよう

ご投稿いただいた方の中から「日本再発見。」賞を、アンケートにお答えいただいた方の中から「旅で笑顔に」賞を抽選でプレゼント。

日本再発見。 検索

○キャンペーン期間: 2011.7.13.wed-10.31.mon

「日本再発見。」賞
国内線ペア往復航空券など、
豪華賞品が当たる!!

「旅で笑顔に」賞
日本旅行業協会(JATA)共通旅行券
1万円分が**100名**様に当たる!!

笑顔2 旅をして、気づいたこと、見つけたこと大募集!!

「夏旅!」作文コンテスト

「観光庁長官賞」など、優秀者には旅行券プレゼント!! ○応募締切: 2011.9.9.fri(当日必着)

笑顔3 長〜く泊まって特典いっぱい!!

3泊以上のおすすめ旅行



官民合同による
国内旅行振興キャンペーン
実施中!



特集

日本を元気に、旅で笑顔に。

全国のさまざまな分野に大きな影響を及ぼした、今年3月の東日本大震災。観光に関しても直接被害にあった地域だけでなく、全国の観光地においても著しい旅行者の減少を招いた。しかし、そんな状況を改善すべく官民合同による国内旅行振興キャンペーンが実施されている。今回は震災後の旅行振興をテーマに、「がんばろう!日本」の内容と目的、観光庁長官と中田英寿氏の振興への思い、そして注目を集めているスポット、岩手県・平泉の魅力と取り組みなどをご紹介します。—日本を元気に、旅で笑顔に。

CONTENTS



特集 日本を元気に、旅で笑顔に。

国内旅行振興キャンペーン
「がんばろう!日本」に
込められた意味……………4

「がんばろう!日本」スペシャル対談
今年の夏、祭りが、人の力が、
日本を盛り上げる……………6

観光復興をめざす東北への旅
注目のスポット・平泉へ行こう……………8

被災地への取り組み
ボランティア・ツーリズムを実施……………11

業務密着ルポシリーズ
現場力……………12
運輸安全調査官

シリーズ 探訪・探究
訪れたいまち……………16
北海道上川郡東川町

教えて国土交通省!……………20
うみまる・うみんの……………21
海保のツウになろう!
特別編 海の駅……………22
MLIT NAVI……………23

国土交通 2011.8-9

MLIT
Ministry of Land, Infrastructure,
Transport and Tourism

■平成23年7月発行 No.110(隔月発行)
■編集発行/国土交通省 大臣官房広報課
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL.03-5253-8111(代表)
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>
■編集協力/株式会社文化工房

本誌の掲載文で、意見を述べた部分については、執筆者の個人的見解であることをお断りします。また、本文記載記事の無断転載を禁じます。

国内旅行振興キャンペーン

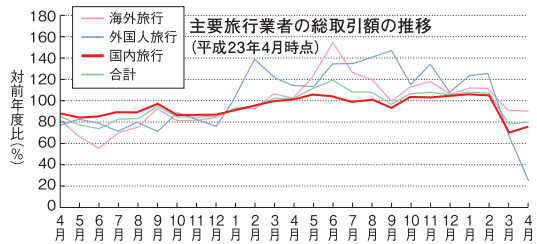
「がんばろう！日本」に込められた意味

東日本大震災により、直接の被害があった地域だけでなく、それ以外の観光地においても自粛ムードを受けて、旅行者が著しく減少するなど、各地域にとって深刻な状況が続いた。

それを受けて、ゴールデンウィークを控えた4月21日からスタートしたのが、観光庁が観光・交通関係業界と連携した、官民合同による国内旅行振興キャンペーン「がんばろう！日本」である。これにより旅行を通じた被災地への直接の支援や、風評被害の払しょくにつながる取り組みなどの推進を図ってきた。

日本の経済にとって国内旅行は非常に重要であり、経済への貢献度は大変高く、地域への波及効果も大きい産業である（国内の宿泊旅行消費額は17.4兆円〔平成21年度〕）。

国内旅行全体が縮小してしまつと、地方経済への悪影響が広がり、各地域からの被災地支援の縮小にもつながってしまう。国内旅行の活性化を通じて、各地域が元気になることで、被災地を応援していく。そうした全国の観光関係者の気持ち「がんばろう！日本」の言葉に込められている。今、夏の旅行シーズンに向けて、さまざまな施策が新たに始まっている。



東日本大震災の旅行への影響が伺えるグラフ。国内旅行の総取引額は前年同月と比較して総取引額は26.7%減少(2カ月連続)。海外旅行、外国人旅行も合わせると総取引額は22.1%減少した。

夏休みの宿泊旅行をバックアップ

この夏の国内宿泊旅行を促進するため、官民合同による国内旅行振興キャンペーンポータルサイト「がんばろう！日本」では、夏のおすすめ旅行として、「3泊以上のおすすめ旅行」「長期滞在」「若者よ、旅に出よう！」の3つのコーナーを設けている。

比較的長い夏休みが取れる長期休暇であっても、これまで旅行会社が提供するパッケージツアーは短期間の商品が主流だった。しかし、この夏の節電対策などを契機に長い期間での旅行に注目が集まっている。さまざまな旅の耳より情報や旅のスタイルを発信し、旅行者にメリットを感じていただいたり、新しいスタイルに触れていただくことで宿泊旅行を推進していく。

「3泊以上のおすすめ旅行」では、本キャンペーンに賛同した各社による3泊以上の場合にさまざまな特典がつくお得なプランなどを紹介している。「長期滞在」では、長期滞在型旅行を推進している自治体や、長期滞在する場合に是非ご利用いただきたい各地域での体験プログラムなどを



左/岩手県盛岡市で8月1日~4日に行われる「盛岡さんさ踊り」。趣向を凝らした浴衣や演出で各グループが踊りを競い合う。右/高知県安芸市の観光名所「野良時計」。のどかな田園風景にたたずみ、夏にはひまわりの景色も楽しめる。

がんばろう！日本



がんばろう！日本

検索

「がんばろう！日本」ポータルサイト
http://kokunai.nihon-kankou.or.jp/



会津若松市で6月26日に行われたイベント「日本の元気再生PROJECT JAPAN in FUKUSHIMA ~始まりのAIZU~」の様。アントニオ猪木氏のほか、稲垣淳一氏、川嶋あい氏、フラガールらが集結し会場を盛り上げた。

「がんばろう！日本」で実施していること

4月21日から始まった国内旅行振興キャンペーンでは、先行的な取り組みとして、応援ツアー・ボランティアツアーや各種イベントで、東北・東日本地域への支援につながる取り組みを中心的に実施してきた。

今年6月には、福島県会津若松市におこし「Project JAPAN in FUKUSHIMA」~始まりのAIZU」を官民連携で開催。観光庁長官の溝畑宏も出席し、福島県知事、会津若松市長とともに、観光で復興を目指して宣言を行った。

また、国内旅行振興キャンペーン「がんばろう！日本」ポータルサイトも開設され、東北・東日本への旅行や全国のイベント情報など耳よりな情報の発信を開始。さらに、7月13日からキャンペーンを大幅拡充。ポータルサイトに、新聞やインターネット、ポスターなどでサイトへの誘引を図るほか、写真、動画、口コミ情報なども活用して国内旅行への機運を盛り上げていく。

紹介している。なお、観光庁では、企業の長期休暇導入の促進も同時期に実施していく。これは、この夏の節電を機に長期休暇の導入や職員の旅行実施を取り入れる企業を増やしていくという試みで、国内宿泊旅行の振興へもつながっていく取り組みである。

「若者よ、旅に出よう！」では、学割プランやグループ・団体向けプランなど若者に向けた各社のプランを紹介している。また、被災地の震災復興を目的としたボランティア・ツーリズム(p.11参照)など地域との関わりや、やりがいを求める若者に向けた提案を後押ししていく。

そして、夏休みの旅の作文コンテスト「夏旅！」も実施される。これは全国の小・中学生を対象に、「旅をして、気づいたこと、見つけたこと」をテーマに、夏休みに電気を使わないエコ生活や、家族・友達との絆、今までは気づかなかった地域の魅力など、思い出や見つけたことを綴った旅行促進のプランである。各賞も用意され、最優秀者には観光庁長官賞が授与される。

ひと味違った夏休みを過ごした子どもたちの新鮮な感想が数多く寄せられることだろう。

作文コンテスト「夏旅！」は400字詰め原稿用紙で2~4枚(ワープロ可)。観光庁ホームページ(<http://www.mlit.go.jp/kankochou/>)から応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入してご応募を。締め切りは9月9日(金)当日必着。



バスで被災地に向かい、作業を行うボランティア・ツーリズム。

観光庁長官
溝畑 宏

観光庁アドバイザー
中田英寿

官民合同による国内旅行振興
キャンペーン「がんばろう!日本」
の一環で、観光庁長官・溝畑 宏
と観光庁アドバイザーを務める
中田英寿氏の対談が行われた。
2人の観光復興に向けた思いとは?



<http://kokunai.nihon-kankou.or.jp/>

「がんばろう!日本」スペシャル対談 今年の夏、祭りが、人の力が、 日本を盛り上げる

**観光を活性化し、
元気を積極的に発信**

溝畑宏(以下M) この度、東日本大震災という未曾有の災害に見舞われました。現在、復興が進められていますが、東北というのはいとも素晴らしい観光資源がある場所なんです。

中田英寿(以下N) 僕は2年前から

るものです。米どころなので酒蔵が多く、また伝統芸能やお祭りも各所にあります。特に今年は東北新幹線が新青森駅まで開通したこともあり、観光客誘致に燃えていたんです。でも、そんな矢先に震災が起こってしまいました。

N 震災後は海外でサッカーのチャリティーマッチをオーガナイズするなど、僕ならではの形で復興の手助けになる活動が続いています。ただ、東北をじっくりと旅していたら、もっと違うアイデアが出てきたのかもしれない。そこは非常に残念です。
M 今は被災され、避難所におられる方も含めて、まだまだ災害の傷跡が残っています。一方で、被災はしたものの観光地として機能しているところも、実はたくさんあるんです。東北復興という中で、観光は非常に大きな役割を担っています。これから夏の観光シーズンですが、東北を元気にしていくための大切な時期だと思っています。

N 僕は観光庁のアドバイザーでもあり、旅行動静は興味深く見守っています。

M 観光庁では官民合同による国内旅行振興キャンペーン「がんばろう!日本」を推進しています。現在、直接被害があった地域だけではなく、風評被害も含めて旅行者客が減少しています。でも、観光を活性化し、



Hiroshi Mizohata
1960年京都府生まれ。自治省から大分県庁へ出向し、2002FIFAワールドカップの試合誘致、立命館アジア太平洋大学の設立を担当。株式会社大分フットボールクラブ代表取締役兼GMを経て、2010年より現職。

日本の元気を積極的に発信していくことは、被災地への経済的かつ精神的な応援になると思うんです。このキャンペーンは、観光庁と観光交通関係業界が統一のロゴやメッセージを使って、一丸となって国内旅行の振興を図る取り組みです。

**将来的に新しい祭りを
作っていくのも大事**

N 僕は国内を旅しているとき、伝統工芸や芸能、食文化などいろいろとフォーカスして見ているのですが、各地域のお祭りも実に興味深い。同じ日本人なのに、「えっ、そんなことやってるの?」と知らなかったものもたくさんあります。

M 個人的には阿波踊りのように参加できてみんな楽しんでる祭りが好



Hidetoshi Nakata
1977年山梨県生まれ。サッカー日本代表やイタリアセリエAなどで活躍。2006年に現役引退後、一般財団法人TAKE ACTION FOUNDATIONを設立、また観光庁アドバイザーに就任するなど多岐にわたり活動中。

きですね。でも、全国的に有名なものだけでなく、ローカルな祭りもアピールしていかなくてはいけないと思います。

N 国内には、まだまだ埋もれている祭りが多くあります。祭りは観光的にすごいコンテンツで、うまくアピールすれば日本人はもちろん外国人の人も見たいと思うはず。でも、今は少し自粛ムードが漂っていると聞きました。

M それは震災が起こった後、危惧していたことのひとつです。自粛ムードからいかに早く脱するか非常に重要だと思っています。過去と決別し、前を向いて積極的に活動することは、結果的に被災地を応援することになるわけですから。そこで、4月上旬に「自粛をやめよう」という宣言を出しました。それから祭りや

花火大会を中止しそうなところに片っ端から電話したんです。「復活させましょう」と。それもあってか、東京では隅田川の花火や神奈川新聞花火大会など、開催が危ぶまれていたものが復活し始めました。

N 祭りは各地域に根付いた文化のひとつで、元々は神事ですけれども、観光という視点で考えれば、やはり大きい祭りがあればそれだけ多くの人が動くわけですよ。そのためには、将来的に新しい祭りを作っていくのも大事かもしれない。

M 私は京都出身ですが、葵祭や祇園祭など季節の端々に祭りがありました。祭りは地域のシンボルでもありますよね。

N これは個人的な考えですが、自分が悲しいときにまわりが悲しんでいると、もっと悲しくなる。でも、まわりが楽しませてくれれば明るくなるんです。だから、自粛するよりは明るく励ます形でのやり方があるだろうし、その方がいいんじゃないかと思っていますね。

M 東北ではこの夏、復興を目指して多くの祭りが開催されます。被災してさまざまな課題を抱えている中で祭りを維持し、開催するのは本当に素晴らしい。そこに東北の皆さんの、自分たちの祭りに対する誇りが、象徴的に現れているのではないのでしょうか。





金色堂や日本最古の能楽堂など見どころ豊富な中尊寺。3000余の国宝・重要文化財を擁する。



毛越寺本堂。薬師如来を本尊としている。春の桜、夏の菖蒲、秋の萩でも知られる花の寺。



毎年8月16日に行われる「大文字まつり」。東福山(たばしねやま)に約200mの「大」の字が浮かび上がる。



名所が点在している平泉町は、時間があれば歩いて巡ることもできるが(JR平泉駅から毛越寺まで徒歩約15分)、巡回バス「るんるん」やレンタサイクルを使うと回りやすい。
●JR平泉駅までの主要アクセス……東北新幹線でJR 東京駅からJR一ノ関駅まで約3時間、東北本線乗り換え約8分でJR平泉駅。

思想に根ざした平和で平等な浄土を作ろうと考えた。それは戦火にたおれた人々はもちろんのこと、獣や鳥、魚介、すべての命を祈念する鎮護国家を目指したものだ。中尊寺は、その深い思いを実感できる場所だ。

杉の巨木に囲まれた月見坂を上ると、本堂や多数の堂塔の奥に、かの有名な金色堂がある。柱や床、多くの仏像……と、まばゆい金に輝く5.5m四方の堂宇。御本尊の阿弥陀如来は無量の光を放つとされる。金は、その永遠の光によって魔を払うものなのだ。

「五月雨の降りのこしてや光堂」——松尾芭蕉が『奥の細道』の旅で訪ねた

世界遺産に登録されれば、国内外から多くの観光客が訪れる。平泉では平成19年度から、受け入れ態勢整備のため国県町が一体となった取り組みが進められてきた。

「国土交通省としては、公共交通の整備や、外国人観光客に向けての案内表示などの多言語化、広域観光圏としてのソフト充実などを広く支援してきた」と話すのは、東北運輸局観光地域振興課長の藤澤義人。

観光客受け入れへのさまざまな対応も

庭はかなり広い。一般に浄土式と呼ばれるスタイルで、大きな池は大海を表わす。枯山水などが登場するはるか以前の、おおらかで超然とした庭園様式だ。隣接する旧観自在王院庭園、また近くにある無量光院跡でも、毛越寺同様の浄土式庭園が発掘復元され、このみちのくの地に拓かれた文化のありようを伝える。

京の都から遠く離れ、都に匹敵する雅な文化都市を築いた人々がいた。この歴史はまさに東北の誇りであろう。



平安期の浄土思想を伝える毛越寺庭園。池の水は、奥にある滝から遣水(やりみず)を通って流れ込み、山から大海に向かう様子を表わしている。

観光復興をめざす東北への旅

注目のスポット・平泉へ行こう

6月、世界遺産に登録された岩手県平泉町。未曾有の震災を経た東北で、そのニュースは復興に向かうひとつの光だ。世界が注目する平泉の魅力と、観光客を受け入れるインフラ整備への取り組みを訪ねた。

平安時代に花開いた 平和・平等の浄土

岩手県平泉町は東北の中心に位置する。奥州藤原氏が平安時代末期に築いた都市は、当時のみちのく南端の白河関から北端の青森県外が浜を結ぶラインのちょうど真ん中。初代藤原清衡はこの地に「みちのく中央の尊い寺」として中尊寺を建立した。

東北初の世界遺産となった「平泉の文化遺産」は、中尊寺・毛越寺・観自在王院跡・無量光院跡・金鶏山の5カ所の「仏国土(浄土)」を表わす建築・庭園及び考古学的遺跡群が対象。日本特有の自然崇拜思想などと融合した浄土思想に基づく史跡が、世界に評価されたわけだ。

現在の平泉は緑に包まれた小さな町。そこに、かつての繁栄をしのばせる多くの見どころが点在する。

前九年合戦、後三年合戦という二度の戦乱を経てみちのくの覇者となった清衡は、金や漆、海産物など豊かな資源を持つ東北の地に、法華経

お堂は、今も須弥壇の中に藤原三代の御遺体を守りつつ静かにたたずむ。二代基衡と三代秀衡が造営したのが毛越寺だ。平安時代の作庭様式を伝える日本最古の庭園が、ほぼ完全な形で残されていることで知られる。



上/同じく陸前高田市。田の瓦礫撤去作業には、重機が使えないため、多くの人手を必要とする。下/岩手県釜石市で、側溝に溜まった汚泥の除去作業。



※写真は全て、(株)ダイヤモンド・ビッグ社提供。



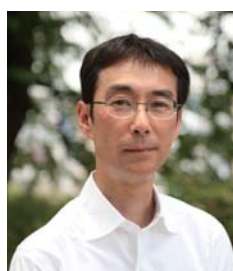
岩手県陸前高田市にて。住民からの「来年の田植えに備えたい」との依頼に応え、田を覆い尽くす瓦礫の撤去作業。

東日本大震災をきっかけに、注目を集めたボランティア・ツーリズム。誕生までの経緯、反響について観光庁の担当者に聞いた。

被災地への取り組み ボランティア・ツーリズムを実施



右/町内の史跡を巡るのに便利な巡回バス「るるん」も整備。停留所には英語も併記した。
右下/各所に景観に似合う多言語案内表示を設置。レンタサイクルや徒歩で巡る人にも役立つ。
上/駅から中尊寺に向かう通りには、行灯(あんどん)をつけた。今後、歩道の整備なども進む。



東北運輸局 企画観光部 観光地域振興課長 藤澤義人



観光案内板には地図の史跡名や解説などが日本語の他4言語で表記。これは毛越寺のもの。

被災地とボランティア希望者をつなぐ試み

東日本大震災のような大規模な災害では、被災地の復旧・復興のためにボランティアの力が欠かせない。震災直後やゴールデンウィークには多くの人が参加したが、徐々に減少し、現在も各地でボランティアの数が足りない状況が続いているという。

ボランティアに参加したい。しかし、「どうやって参加していいかわからない」「交通手段や宿泊場所が確保できない」「被災地にかえって迷惑をかけるまいか」などの心配から参加に踏み出せないケースも多いだろう。

そうした被災地とボランティア希望者のマッチングのため、旅行者があらかじめ、受入先の災害ボランティアセンターと調整を済ませた上、出発地から宿泊先、食事、活動場所などを確保し、受入側負担を軽減すると共に、宿泊・飲食といった消費行動で被災地の経済的復興を支援するのがボランティア・ツーリズム。

すでに販売された商品では募集から即日完売したものも多い。旅行者によっては1400人もの予約待ちが出るほどの大きな反響を呼んだ。「観光庁では平成22年度に、若年層に対する国内旅行振興策の一環として、ボランティア活動など『特定の目的を持った旅行による旅行需要喚起』を、民間業者と共に調査・検討していました。そのため、図らずもそのノウハウ・成果を被災地の復興支援へ迅速に活かすことができたという経緯があります」

そう語るのには、観光庁観光経済担当参事官付主査の大江和俊。4〜5月の実施当初はボランティア活動だけを目的とした商品が主流だったが、現在は被災地・周辺地域の復興支援の目的で、東北各地の観光地への観光を組み込んだ商品も支援している。

「ボランティアを必要とする被災地の実情を探りながら、よりよい形で継続していければと願っております」(大江)

すでに販売された商品では募集から即日完売したものも多い。旅行者によっては1400人もの予約待ちが出るほどの大きな反響を呼んだ。



全行程を終え、早朝に帰着したボランティア参加者たち。新宿駅にて。

「前は、史跡に向かう道路は常に渋滞に悩まされていた。そこでマイカーから巡回バスへの転換を促進。地元商店街と提携した特典付きフリーパスを発行するほか、土日祝日には便数を2倍に増便した。また、平泉周辺の観光地を広域的に周遊可能なエリアフリーパスの創設も支援した。

「観光の振興に最も大切なのは、その土地に行く足と、中での移動の足。次は平泉を核に東北各地を観光できる交通網の整備を進めます」(藤澤)

多言語化では、バス停は英語併記、案内看板やパンフレット、ホームページなどは日本語・英語・ハンゲル・繁体字・簡体字の5言語表記とした。またソフト充実の一環として、観光ガイドのできる「語り部タクシー」を認定。講習会では英語や中国語での簡単な会話講座も開催している。

「今後は通過型観光地から滞在型観光地へと転換を図るため、朝の勤行見学や坐禅・写経体験、農業体験などと農家民泊を絡めた平泉ならではの観光圏、東北農政局などと連携を図りながら積極的に支援していきたい」(藤澤)

町ではこれからの平泉についてどのように考えているのだろう。

平泉観光協会会長の小野寺邦夫さんは、「平泉は900年余の歴史の中で、幾度も攻められても、一度も他を

攻めたことがない平和思想の地です。その価値は大変に大きい。我々も世界遺産登録に向けてさまざまな勉強を重ねましたが、その過程で皆の認識が高まり、これまで以上にいい町になりました」と話す。

「京都や奈良に負けない文化を持っているたいですね」(小野寺さん)

いまや世界に広く知られるようになった平泉。復興に向かう東北を支援する意味でも、ゆつくりと足を運んでみたい。

平泉は「祈り」の地です

東日本大震災後、観光客数は大きく落ち込みましたが、ゴールデンウィーク頃には徐々に回復。今は世界遺産効果もあり、多くの方がこの町に来てくださるようになりました。平泉は藤原清衡の「抜苦与楽」の言葉にあるように、苦しみを取り去り楽しみを与える浄土を表現した土地です。この祈りの心や安らぎ、他者への思いなどは、つらい災害を経た今、大きな意味を持つのではないのでしょうか。心とむ平泉を、ぜひお訪ねください。

社団法人平泉観光協会会長 小野寺邦夫さん



通勤の足として多くの人々が利用する京王電鉄。6つの路線を持つ。



大臣官房運輸安全監理官付 運輸安全調査官
山村政則
中国運輸局で自動車・鉄道の安全対策に携わったのち現職。地方運輸局の調査官研修も担当している。



上/桜上水乗務区で行われた評価風景。3人の調査官が、安全推進部長や乗務区長と向き合う。下/壁に貼ってある「運転課かわら版」などの掲示物もチェック。

全国の事業者に向き 取り組み体制を調査

「運輸安全マネジメント制度」という言葉を聞いたことがあるだろうか。これは運輸事業者の安全性を向上させるため、各事業者の経営トップから現場までが一丸となった体制を作り、その体制について国が評価助言していくというもの。交通関連の事故やトラブルの多くはヒューマンエラーに起因する。平成17年頃に鉄道、自動車、フェリーなどで重大事故が続いたことを受け、安全最優先の事業体制確立をめざして、翌18年に創設された制度だ。

数などの条件はあるがバス、タクシー、トラックなど。船なら貨物船やタンカーからフェリー、小型の遊漁船まで。路面電車やロープウェイ、スキー場のリフトも対象になるそうだ。それぞれの事業者は、安全統括管理者を定めるとともに、国が定めたガイドラインに沿った安全管理規程の作成・届け出が義務づけられる。もちろん、規程を作れば終わりというものではない。常に見直しと改善を進め、安全への意識を進化させていくことも求められている。

国土交通省では、運輸安全マネジメント制度が始まると同時に、各事業者の取り組み状況を年に1回チェックし、改善への具体的な助言を行う「運輸安全マネジメント評価」の担当を設けている。それが、大臣官房運輸安全

一運輸安全マネジメント評価の流れ一

実施期間：1～2日間
場所：事業者の本社など
作業内容：経営トップほか経営管理部門へのインタビューと書類の確認
評価指針：安全管理規定に係わるガイドライン

■評価日程例～2日間の場合～

1日目	2日目
13:00 オープニングミーティング	9:40 総務部長インタビュー
13:30 トップインタビュー	10:30 文書・記録の確認
14:50 安全統括管理者インタビュー	12:00 評価担当者打合せ
16:20 安全推進室長インタビュー	15:30 クロージングミーティング
17:30 諸連絡	16:00 評価終了
17:40 初日終了	

一般的に評価の実施は1～2日間。対象の企業を訪ねて、インタビューや書類の確認を行う。1事業者に対して調査官は3～5人ほどでチームを組む。日程調整、前年までの評価報告書の内容確認、新聞記事やホームページのチェックといった事前準備はチームリーダーの仕事だ。

チームの編成は事業者ごとに変わる。今回の評価は山村がリーダーで行われ、1日目は桜上水乗務区で行われた。

京王電鉄桜上水乗務区に山村ほか2人が出向いた。電鉄側は安全推進部長、安全推進部課長補佐、計画管理部主査、乗務区長、副乗務区長の5

常日頃から “聞く技術”を磨く

監理官という部署だ。所属する運輸安全調査官は21名。全国を対象企業は5000社以上もあり、地方運輸局でも分担するが、比較的大規模な企業に対しては、地域がどこであれ本省の調査官が出向いているという。

今回話を聞いた山村政則は、制度のスタート時から中国運輸局で評価を担当し、平成21年度から本省に移ったベテラン調査官だ。全国を飛び回る日々の中、東京の私鉄大手・京王電鉄で行った評価に同行した。

運輸安全調査官

運輸事業者の安全対策を 幅広い視点でチェック

ヒューマンエラーによる交通事故を未然に防ぐため、平成18年に創設された「運輸安全マネジメント制度」。各事業者の対策を評価する運輸安全調査官の仕事とは？



職場に戻り、次に控えている評価について打ち合せ。チームワークが抜群だという同僚たち。



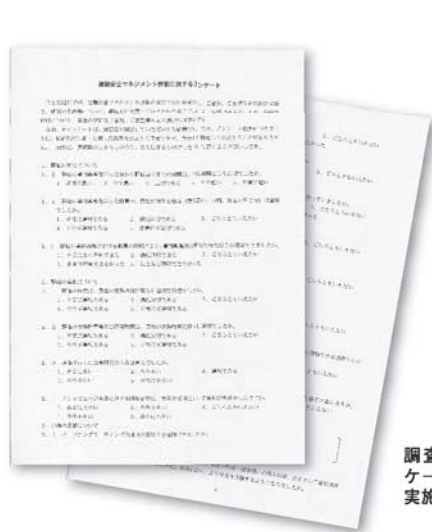
2日目は京王電鉄本社で実施。永田社長による説明から始まった。



上/乗務点呼の立ち会い。運転士と車掌が1組ずつ、当日の状況や乗務内容を確認する。右/乗務前にはアルコール呼気のチェックも。

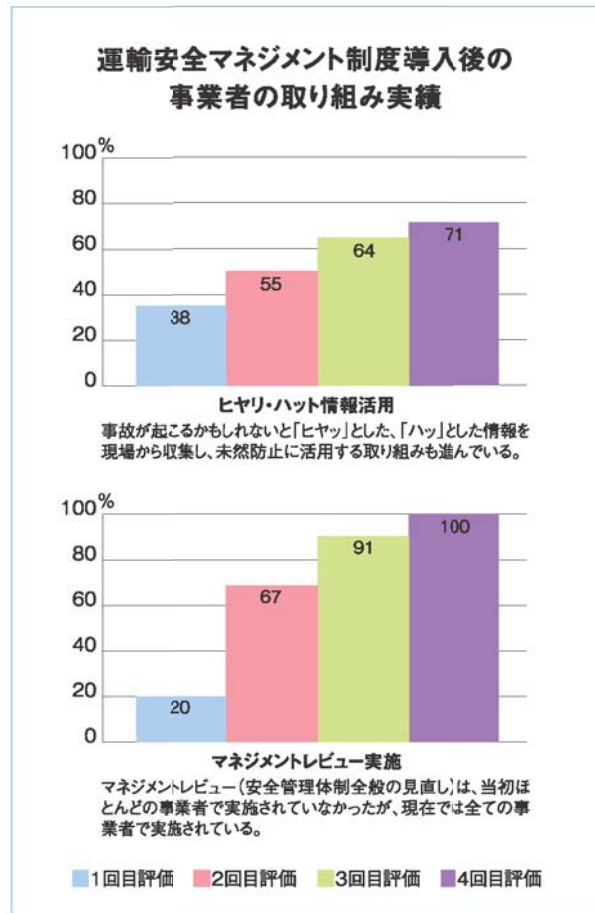


京王電鉄株式会社 鉄道事業本部 安全推進部長兼安全推進担当課長の岡崎雅幸さん。



過去の報告書もすべて大切な資料として保管。鉄道、航空、自動車など色分けされたファイルが並ぶ。

調査後には事業者アンケートを取り、今後の評価実施方針に反映させる。



人が列席。会議室で、対面式による評価が始まった。最初に全社的な安全対策の状況や進展を聞き、次いで乗務点呼の様子に立ち会う。京王電鉄では毎月27日を「安全再確認の日」と決め、安全推進部による点呼立ち会いや報告会なども行っている。これらはその実施形態の確認だ。

続いて、乗務区長、副乗務区長へのインタビュー。

安全方針の周知はどのように？

現場ではどのような苦勞をされているんでしょうね？

運輸安全マネジメント制度で、みなさんはどう変わったでしょうか？

問いかける山村は常に笑顔だ。共感の言葉や笑いも出る。なかなか雰囲気。調査の堅苦しさも感じさせない。それもそのはず、調査官たちは互いにしばしば模擬インタビューを行い、話を聞く技術を磨いているのだとか。調査官は実際の調査だけでなく、各地方運輸局職員の研修も担当している。ダミー企業の社長役になって、職員インタビューに答えることもある。研修の効果が高めるために「わざと研修生が困るような答えを用意することもありますよ」と笑う。

京王電鉄の評価2日目は本社で実施。永田正取締役社長による取り組み状況の説明の後、社長、安全統括管理者、安全推進部長それぞれへのインタビューを行い、職場に戻って評価報告

に2社を回る。1週間ほどの地方出張になる。東京であれ、地方であれ、評価を行った後の報告書はその日のうちに8割がたは作成する。

翌日ではだめ。内容が鮮明なうちにチームで話し合ってみます。夜10時や11時まではかかりますが、すぐに次の事業者が控えていますから」

報告書を出した後は、対象事業者に出したアンケートも回収される。内容は、調査手順への評価や有効性。調査官の態度への感想なども含まれる。こちらが評価すると併せて、調査官も事業者から評価される。こうした結果もふまえて、「運輸安全マネジメント評価」の実施要領も毎年見直されていき、お互いの安全意識を高め

「各事業者さんに安全対策の見直しと改善を求めると同じく、我々の業務もつねに次の段階へと進んでいかなければなりません。そこがこの仕事の大変な点です」

今では全国の大手事業者では、100%が、ガイドラインに即した安全方針策定や安全コンセプト教育実施を達成している。

「事故が減ったんです。と言われるとうれしいですね。やはり、事業者さんに喜んでいただけることが一番のやりがいです」

そう話す山村の思いの先には、身近な運輸機関を利用するすべての人々の、安心安全な暮らしがある。

続いて、乗務区長、副乗務区長へのインタビュー。

安全方針の周知はどのように？

現場ではどのような苦勞をされているんでしょうね？

運輸安全マネジメント制度で、みなさんはどう変わったでしょうか？

問いかける山村は常に笑顔だ。共感の言葉や笑いも出る。なかなか雰囲気。調査の堅苦しさも感じさせない。それもそのはず、調査官たちは互いにしばしば模擬インタビューを行い、話を聞く技術を磨いているのだとか。調査官は実際の調査だけでなく、各地方運輸局職員の研修も担当している。ダミー企業の社長役になって、職員インタビューに答えることもある。研修の効果が高めるために「わざと研修生が困るような答えを用意することもありますよ」と笑う。

京王電鉄の評価2日目は本社で実施。永田正取締役社長による取り組み状況の説明の後、社長、安全統括管理者、安全推進部長それぞれへのインタビューを行い、職場に戻って評価報告

山村が担当する企業は年間約25社。関東以外の企業に行く時は1回

事業者が喜んでもらうそれが一番のやりがい

京王電鉄安全推進部長の岡崎雅幸さんは「制度発足以来、組織も改善し、安全性の確保を最重要課題としています。今は安全管理の体制を現場まで浸透させている最中。評価の際に他社の例なども聞かせてもらい、生かしていけるのはありがたいですね」と話す。

山村が担当する企業は年間約25社。関東以外の企業に行く時は1回

書を作成する一連の作業は朝9時過ぎから夜遅くまで続く。

京王電鉄の「運輸安全マネジメント評価」は今年で5回目。3回目までは全社的な体制作りの助言が中心だった。乗務区など現場の状況を聞くのは4回目から。安全への取り組みが進むにつれ、調査する内容も少しずつ変わっていく。



経営トップによる現場巡視も安全管理には不可欠。高幡不動検車区構内で線路の点検を受ける永田社長。



キトウシ山から臨む米どころ東川の田園風景。



道の駅ひがしかわ「道草館」。

●「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテストとは

国土交通省が水源地域などの地域活性化を目的に開催しているコンテスト。水源地域や水文化の保全などに取り組む地域を「水の里」と定義し、水の里の地域活性化につながる旅行企画を募集・選考するとともに、受賞企画については、本コンテストに協力する観光関連団体によるプロモーション活動を実施している。

る湿地は花が満開だった。日本で一番長い間、雪を楽しめる所だとガイドブックに書いてはあったが、「姿見駅」へ到着すると6月中旬だというのに二面の銀世界。思わず目を見張った。
案内カウンターに行くと、高山植物が咲いている場所や道の状態を地図で丁寧に教えてくれた。霧が出ても迷わないよう道にロープがはられ、旗を立ててあると聞き「安心。長靴を借り」「姿見の池」周辺約1時間のコースを歩

き始め、しばらく行くと登山装備をした女性が一人で歩いているのに出会った。ビジターセンターの職員だった。「山頂の花がどのくらい咲いているか」という問い合わせが多いので、今、頂上まで登って見てきたところです」
ホームページ上で、リアルタイムの山の状況や高山植物、野生動物の情報がわかるのは、こうした地道な働きのおかげ。訪れる人の安全と自然を守る重要な職務だが、なかなかできない大変な仕事だ。
第一展望台には、雲の切れ間を待つたくさんのカメラマンが。さすがに写真の町。キバナシヤクナゲが咲き始めた山道で耳を澄ませば、硫黄が吹き出す音、澄んだ空気——。東京を発って4時間半、清涼とした別世界に包まれていた。
町へ戻る途中、「大雪旭岳源水」に立ち寄り、源泉から引かれた源水岩の取水口は、水を汲みにきた大勢の人で賑わっていた。せせらぎの音を楽しみつつ、川沿いを歩くと岩の間から勢いよく水が湧き出している。
何十年とも何百年とも言われる長い年月をかけて浸透した雪が、天然フィルターを通して初めて出てくるという。水を手ですくうと冷蔵庫で冷やしたような冷たさ。口に含むと水が美味しくてこういうことか、と初めてわかった。東川町に上水道はない。全戸こんな地下水で生活できるとはなん



シリーズ 探訪・探究

訪れたいまち

第10回 北海道東川郡東川町



写真映りのよい町づくりと人づくりを実践し、「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト2011」で特別賞を受賞した、上川郡東川町を訪れてみました。

「写真の町」宣言

昭和60年頃、全国の市区町村が地域おこしのため、商品開発などにしのぎを削る中、東川町はモノではなく「写真」という文化を選ぶ。
「自然」と「人」、「人」と「文化」、「人」と「人」それぞれの出会いの中に感動が生まれます。そのとき、それぞれの追間に風のようにカメラがあるなら、人は、その出会いを永久に手の中に、幾多の人々に感動を与え、分かちあうことができるのです。(中略)この恵まれた大地に、世界の人々に開かれた町、心のこもった、写真映りのよい町の創造をめざします(抜粋)
昭和60年6月1日、写真の町宣言。
写真を核とした町づくりが始まった。自治体独自の「東川賞」という写真作家賞を創設し、毎年「国際写真フェスティバル」を開催している。その開幕を飾る全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園」には、第18回目の今年、過去最多の403校の応募があった。
少子高齢化が進み、平成5年に7千人を切った人口は、平成23年現在7千8百人。幼保一体型の「幼児センター」や東川風住宅が連なる「グリーンヴィレッジ」の整備などをきっかけに、大都市や周辺地域からの移住者が増加している。
写真の町とはいったいどんな町だろう？

全てが絵になる美しい町

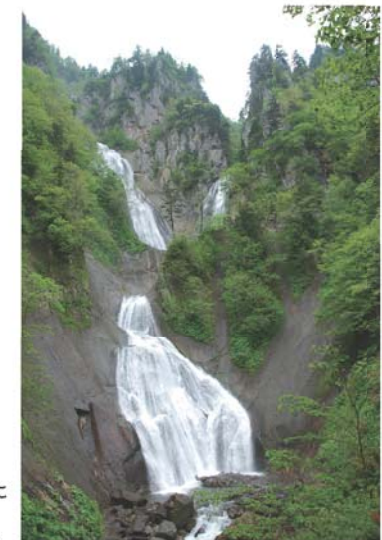
東川町は、北海道のほぼ中央に位置し、大雪山国立公園の山裾に広がる。旭川空港から町の中心部にある道の駅まで車で約10分だった。野生動物の飛び出しに注意と書かれた地図を見て、北海道に来たことを実感する。忠別川沿いを走り、最初に天人峡に向かう。見上げるばかりの柱状の絶壁は壮観そのもの。高さ270mの「羽衣の滝」は、優雅な名前に似合わず迫力があった。
その後、北海道の最高峰旭岳へ。ロープウェイの「山麓駅」の周囲に広が



旭岳(2291m)。アイヌの人は、大雪山を「カムイミタラ—神々の遊ぶ庭—」と呼んだ。



旭岳の第一展望台。心を動かされる瞬間を捉えようとするカメラマン達。



「羽衣の滝」。雪解けの水が七段になって、岩肌をつたい落ちる。「日本の滝100選」に選ばれている。



旭岳ロープウェイ「旭岳駅」周辺は、エゾノリュウキンカとミズバショウがいっぱい咲いていた。



旭岳ビジターセンターのスタッフ。「姿見駅」周辺で出会った田上さん(左)。「東川は熊とも共存しています」と大塚さん(右)。



三角屋根が並ぶ、「グリーンヴィレッジ」の緑豊かな町並み。

幼児センターのオブジェ「木とふれあい、木に学び、木と生きる」=木育(もいく)を行う。

MLITレポート

全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介します。

Reporter

北海道開発局
旭川開発建設部
特定道路事業対策官
加藤 博美



旭 川開発建設部では、地域を愛する方々と協働して、「美しい景観づくり」「个性的で活力あるまちづくり」「魅力ある観光空間づくり」を目指す「シーニックバイウェイ北海道」の取り組みを進めています。

我々の地元の大雪・富良野ルートは、平成17年に国内最初のシーニックバイウェイルートとして認定されました。大雪山系の雄大な山並み、パッチワークのような丘陵農地や花畑などに代表される風景が魅力で国内外から多くの方が訪れています。

現在、「四季を彩る花人街道」をテーマに、関係市町村2市6町1村(旭川市、富良野市、東神楽町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、^{しやつかつ}占冠村)の19団体(NPO、商工会など)と自治体が、総延長約100キロの沿道

の清掃活動や植栽など沿道景観の整備に参加しています。

と ところで、みなさん「ウインターサーカス」を知っていますか？ このイベントは、「デザインしたゆきのかたまり」にプロジェクターやライトによる演出を行う、地元の方々とアーティストが地域資源を活用した「雪の芸術活動」です。会場では、温かい飲食の提供や各種イベントが行われ、昨年は大雪・富良野ルート内に設けられた7つの会場を全て周遊するバスツアーも開催され大盛況でした。「ゆきのランドアート」のシンプルで幻想的な造形美を楽しみに冬の北海道にもぜひ、お越しください。

●シーニックバイウェイ北海道 (Scenic Byway HOKKAIDO)とは

景観・シーン(Scene)の形容詞シーニック(Scenic)と、わき道・寄り道を意味するバイウェイ(Byway)を組み合わせた言葉。国土交通省が実施している道路施策の一つ。



地域が作り育てる北海道の風景。道がまちの魅力と心を繋ぐ。



奥山三彩 作「voyagi」
(上富良野 見晴台公園会場)
©菊地晴夫



昼に撮影した「ゆきのかたまり」。(旭川 西神楽会場) 雪が溶けてなくなるのもアート。 ©菊地晴夫



雷田真美 作「ゆきのかたまり」



「カムイワッカシンブイ」と言うの。きれいな水が湧き出る穴という意味よ！優しい目をした安井さんの声は種やかだった。多数の湧き水の出る所を各家庭で守る。



こんこんと1日に6600トン湧き出る。「平成の名水百選」に選ばれている。



移住してきたクラフトデザイナー達の工房が連なる。森林の中にカフェあり、ショップあり。



君の椅子 (BAU工房)
「ようこそ。君の居場所はここにあるよ」子どもの成長を住民みんなで見守りたいという願いをこめて、町で生まれた赤ちゃんに贈られる。名前と生年月日、通し番号入りの手作り。

上川盆地に位置するため、気温は夏に30度、冬はマイナス20度にもなるというのに、水温は年中6〜7度というのも、山の神がもたらす神秘だ。

山の恵みを守り育てて未来へ残す

生命の源、大雪山は深い溪谷を刻み、広大な樹海を育て、野生動物を生み、降った雪は川から海へ注ぐ。人間もその自然の一部であり、逆らっては生きていけない。人々は、山の恵みを大切に守り、慈しみ、開拓し、子ども達へ手渡してきた。それらを繋ぎあわせ未来へ残す「人」も素晴らしい。

ここ東川では一瞬一瞬全てがシャッターチャンス。自然と人と文化の絶妙な調和が美しい町だった。

Interview

地元で洋菓子店を営む傍ら、町おこしに尽力されている高島郁宏さんにお話を伺った。



「POIRE」月庵(ポワール てんげつあん)
店主・高島郁宏 氏
町の商工会青年部長、写真の町の企画委員などを歴任し、町をこよなく愛するパティシエ。

——東川への想いを聞かせてください。

先輩が創った文化を重ね合わせ、ゆるぎない文化を創っていきたい。全戸天然のミネラルウォーターで暮らしていることは町の誇りであり、町民の自慢です。

——お菓子を巡って新しい取り組みをされていると聞きました。七夕にちなんで「サマーバレンタイン」を北海道でも創りたいと考えいろいろ調べました。石狩川で繋がる7つの町*が、「夏の大きな三角形」を形作っていたのをきっかけに「夢のあることをしよう!」と倶楽部ラ・ポア・ラクテ(天の川)を設立。地域の仲間と商品開発を行い、ドライブラリーを企画しました。

——「地域統一ブランド」にまとめることは難しかったのでは？
これからの時代、一人勝ちはありません。ネーミングは「ラ・ポア・ラクテ」、コンセプトは「出逢い・想いやり・感謝」、そして「地元産又は地元近くの素材を使う」ことだけを統一しました。素材が違うので、それぞれその土地に「物語」が生まれ、商品価値を上げていきたいと思います。

——これからの地域の将来像は？
このブランドを業種を超えて広げ、地域全体を元気にしたい。例えば家具屋が「二人の椅子」を、お寿司屋が「天の川ちらし」を作ってくれたら楽しいと思います。

*東川町-旭川市-深川市-妹背牛町-滝川市-新十津川町-砂川市

菓子屋として何ができるかを考え商品ラベルに「東川」を入れている。



木彫看板は木工の町を象徴する。

●「ラ・ポア・ラクテ」とは

「ラ・ポア・ラクテ」はフランス語で「天の川」の意味。織姫と彦星の物語から着想を得て、石狩川を天の川とみなし、石狩川が流れる旭川市(=織姫)・妹背牛町(=彦星)・東川町(白鳥座)を夏の夜空に輝く「夏の大きな三角形」に見立てている。



うみまる・うーみんの海保のツウになろう!

海のもしもは118番

海でもし事故があつたら「118」番に電話してね!



第2回:「船艇」のはなし

いろいろな仕事によってさまざまな船が活躍しているので紹介するよ。海上保安庁の船には「S字マーク」が描かれているから港で見つけてね。

日本の海を守る海上保安庁にはどのような船があるの?



うみまる (海上保安庁マスコットキャラクター)

うーみん

「S字マーク」とは
海上保安庁の業務である Security, Search and Rescue, Safety, Survey と、モットーである Speed, Smart, Smile, Service の、それぞれ頭文字である「S」を図案化したものです。巡視船艇や航空機などに紺色で描かれています。

海の安全を守っている海上保安庁では、さまざまな船が活躍しています。その代表的なものとして、巡視船・巡視艇があります。どちらも海上における海の治安維持や海難救助活動を行っています。より広範囲の海域で活動しているのが巡視船で、主に港内や沿岸付近で活動しているのが巡視艇です。巡視船や巡視艇は全国の海上保安部署を基地に、365日、24時間海のパトロールを行っています。このほかにも沿岸・海底地形の測量、海流や潮流の観測、海洋汚染の調査などを行う測量船、プレジャーボートの指導取締り、密漁船の取締りなどを行っている特殊警備救難艇、灯台や航路標識などの維持、管理などを行う航路標識業務用船などがあります。



PL型(3,500トン型)巡視船「いず」



PC型(30メートル型)巡視艇「しまくも」



HL型(大型測量船)「昭洋」

教えて 国土交通省!

国土交通省に寄せられた、普段の生活で感じたふとした疑問や質問などを紹介するコーナーです。

気象庁の担当者に聞きました

Q 「火山噴火時に注意することは？」

今年1月、鹿児島県の新燃岳が52年ぶりに噴火して話題になりました。日本には火山がたくさんありますが、火山が噴火した時に備えて注意することを教えてください。(群馬県・中2)

火山の噴火時には、「噴石」「火砕流」「降灰」「小さな噴石(火山れき)」「大きな空振」「上空の風」「降雨時の土石流」などに注意が必要です。

気象庁は、全国の活火山を対象に噴火災害軽減のため、噴火警報・噴火予報を発表しています。噴火の影響が及ぶ危険な範囲を明示し、火山ごとに噴火警戒レベルを発表していますので、ホームページなどでご確認ください。(http://www.jma.go.jp/jp/volcano/)

また、住民や登山者の方に必要な防災対応についても、噴火警戒レベルを5段階に区分し、「避難(レベル5)」「避難準備(レベル4)」「入山規制(レベル3)」「火口周辺規制(レベル2)」「平常(レベル1)」のキーワードで警戒を呼びかけていますので、参考にしてください。

※爆発的な噴火の発生に伴い、火口の急激な気圧変化による空気の振動が、衝撃波となって空气中を伝わる現象。窓などを壊すことがある。



噴煙を上げる新燃岳。撮影:福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

水資源部の担当者に聞きました

Q 「効果的な打ち水の方法は？」

暑い夏を乗り切るために、クラスの班ごとに自分たちでできる事を考えています。いろいろな方法を調べているうちに「打ち水」を知りました。どのようにやれば効果的なのですか?(神奈川県・小6)

打ち水は、水資源の有効利用に結びつくだけでなく、ヒートアイランド対策にも貢献するため、近年見直され、注目を集めています。原則として、水道水ではなく、お風呂の残り湯や雨水などを再利用して活用します。また、ペットボトルやポリバケツなど身近なものを使って行います。江戸時代のエコライフ・伝統文化の見直しという観点から、浴衣など涼しげな服装で行うと楽しめると思います。

国土交通省でも、8月1日~7日までの「水の週間」の行事の一つとして打ち水を行っており、全国にもその輪が広がりつつあります。ちなみに、昨年に国土交通省で行った打ち水では、10分程度の作業でしたが、37℃から36℃へ1度下がりました。みなさんも、冷房を使用する代わりに、ご家族やお友達と打ち水を行い、楽しみながら効果を実感してみてください。



国土交通省で行った打ち水の様子。

震災復旧・復興に資する技術情報を公表しました!!

国土交通省では、民間企業などの有用な新技術の活用促進のため新技術活用システム (NETIS) を運用しています。

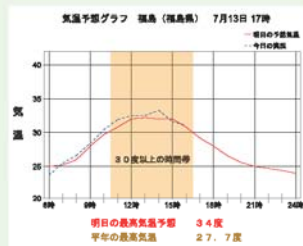
一般の東日本大震災では、地震、津波、液状化などによる甚大な被害が生じました。この度、同システムに登録された技術を対象として、復旧・復興に資する技術を募り国土交通省ホームページ上で公表しました。約 1700 件の技術に関して、ジャンル別検索やキーワード検索により震災対応上の技術的特徴や災害対応関連工事又は業務における活用実績などを閲覧することができます。震災復旧・復興の現場でご活用ください。

「NETIS 震災復旧・復興支援サイト」 <http://www.s-netis.mlit.go.jp>

高温注意情報、高潮関連情報の発表などを始めました。

気象庁は、この夏、広く節電の取り組みがなされる中で、熱中症への注意を呼びかけるため、新たな「高温注意情報」の発表を開始するなど、熱中症対策に関する気象情報を拡充しました。

- ① 翌日又は当日の毎日5時、11時、17時の天気予報の後に「主な地点の気温予測グラフ」を発表し、最高気温が概ね35℃以上になることが予想される場合は「高温注意情報」を発表します。(一部の地域では35℃以外を用いることもあります)



<http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/index.html>

- ② 向こう1週間で最高気温が 35℃以上になることが予想される場合に「高温に関する気象情報」を発表します。

<http://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/> (参照したい地方又は府県を選択してください)

また、夏から秋にかけては、潮位が年間で最も高くなります。東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下の大きかった地域では浸水に対するより一層の注意が必要です。東北から関東北部にかけての太平洋沿岸の潮位、満潮・干潮時刻及び波の高さなどの情報をご覧になれるので、台風や低気圧の接近時など海岸近くで各種作業を行う際は、高潮関連情報をご活用ください。

http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/tide/takashio_portal.html

なお、復旧・復興事業などで野外活動を行う方々の安全対策として携帯電話でも今後の気象の見通しが閲覧できるようになりました。気象ナウキャスト (降水、雷、竜巻発生確度) をご利用ください。

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>

東日本大震災の復旧・復興に向けた対応策をまとめました。

国土交通省では、東日本大震災を受けて、復旧・復興に向けた施策の検討を進め、この度対応策をとりまとめ公表致しました。

今後の本格的な復旧・復興に向けて、①被災者の生活再建と安定 ②新たな発想による復興まちづくり ③地域の産業・経済の再生とそれを支える都市・交通基盤 ④災害に強い国土構造への再構築などに取り組んで参ります。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

「国土交通省における東日本大震災の復旧・復興に向けた対応」
<http://www.mlit.go.jp/common/000147381.pdf>

MLIT NAVI

Information
8/9月号



上/開空島に沈む夕日は、「日本の夕日100選」にも選ばれている。下左/日曜朝市には漁師の店、肉や野菜、菓子類など食材を扱う店が勢揃い。さらに、天ぷらやうどんなどのイートイン・ショップも。下右/田尻沖で獲れるアナゴやタコの天ぷら。揚げたてを青ネギと醤油でいただく絶品。

ACCESS MAP



ハーバースターに聞きました!

「たじり海の駅」は、誰でも気軽に立ち寄ることができるカシユアルなマリナーです。漁業体験のほか、ヨット体験セーリング、ボート免許教室やより高度な技術を学ぶヨットスクールなども開催されており、子どもから大人まで、どなたでも気軽に海を楽しむことができます。もちろん、海からのお越しも大歓迎。これからの季節は、ウッドデッキから眺める夕日がとてもきれいです。ぜひ一度お立ち寄りください。



吉村秀樹さん

DATA

■大阪府泉南郡田尻町りんくうポート北1番地
TEL. 0724-65-8192
■営業時間 / 9:00 ~ 17:00
定休日 / 火曜日 (祝日の場合は翌日休)
■ <http://www.uminoeki.org/category/osaka/tajiri/>



観光やレジャーにもおすすめの海の駅

きよなん・ほた 海の駅 - 千葉県安房郡鋸南町 -

漁協直営の食堂「ばんや」では、旬の美味しい魚介を安く、豊富に満喫できます。中でも金目鯛の煮付けは好評です。また、高濃度炭酸泉を使用した「ばんやの湯」もあり、楽しいひとときが過ごせます。

<http://www.umi-eki.jp/uminoeki/kyonanhota.html>



ごとう・うくじま 海の駅 - 長崎県佐世保市 -

五島列島の最北端に位置する宇久島にあり、東シナ海へのクルージングの休憩場所として最適です。船舶の収容は38隻。地元の観光情報は、宇久町観光協会 HP (<http://www.ukujima.com/>) をご覧ください。

http://www.umi-eki.jp/uminoeki/gotou_ukuzima.html



海の駅に関する情報は、こちらから ▶▶▶▶ http://www.mlit.go.jp/maritime/senpaku/Sea_station/index.html